

令和6年度第1回豊田市環境審議会 会議録

【日 時】 令和6年5月17日(金) 午前9時30分～午前11時00分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎 南51会議室

【出席者】

(委 員)	千頭 聡	(日本福祉大学 国際学部 特任教授)	«会 長»
	渡部 教行	(豊田市自然愛護協会 会長)	«副会長»
	赤坂 洋子	(NPO 法人とよたエコ人プロジェクト)	
	宇井 妥江	(市民公募)	
	梅村 良	(とよたエコライフ倶楽部 運営委員)	
	大坪 瑞樹	(豊田市自然観察の森 所長)	
	篠田 陽作	(ネイチャークラブ東海 代表)	
	竹内 徹	(市民公募)	
	谷口 功	(椋山女学園大学 情報社会学部 教授)	
	前田 洋枝	(南山大学 総合政策学部 教授)	
	森下 幸信	(中部電力パワーグリッド株式会社 豊田支社 支社長)	
			(計11人)

(事務局) 中川環境部長、近藤環境部副部長、松井環境部専門監、塩谷環境政策課長、浅井環境保全課長、青木廃棄物対策課長、金原循環型社会推進課長、長嶋清掃業務課長、宝木清掃施設課長 ほか

【欠席者】

近藤 元博	(愛知工業大学 総合技術研究所 教授)
杉山 範子	(東海学園大学 教育学部 教授、名古屋大学大学院 環境学研究科 特任教授)
長谷川 陽一	(あいち豊田農業協同組合 常務理事)
増田 理子	(名古屋工業大学 社会工学専攻 教授)

【傍聴人】 1名

【次 第】

- 1 委嘱状交付
- 2 市長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議題
 - (1) 会長及び副会長の選任
 - (2) 諮問について
 - (3) 環境審議会の運営について【報告】
 - (4) 現行計画の進捗状況と本市を取り巻く社会環境の変化について【報告】
 - (5) 環境基本計画の改定方針及び環境審議会の進め方について【報告】
- 5 その他

【議 事】

- 1 委嘱状交付
- 2 市長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議題

(1) 会長及び副会長の選任

環境審議会の会長、副会長については互選により以下のとおり決定

【会長】千頭 聡 (日本福祉大学 国際学部 特任教授)

【副会長】渡部 教行 (豊田市自然愛護協会 会長)

➤ 会長挨拶

環境審議会の中では、皆さんに遠慮なくご意見をいただきたい。地球の平均気温は+1.5℃を超えつつあり、瀬戸際の状況であるが、世界全体がゼロカーボンに向けて同じ方向を向いているわけではないと感じる。豊田市は都市部もあり、自然にも囲まれた地域もあり、多様な地域であるので、豊田市環境基本計画を策定するときには、都市部をイメージして議論した場合と、中山間部をイメージした議論の場合では、だいぶ内容が変わってくる。この両面を見ながら、全体として議論を進めていくことを期待する。

(2) 諮問について

市長から千頭会長へ諮問

(3) 環境審議会の運営について【報告】

(4) 現行計画の進捗状況と本市を取り巻く社会環境の変化について【報告】

会長	・ 議題（3）及び（4）について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(資料1に沿って環境審議会の運営について説明。) (資料2、別紙1、別紙2-1、2-2、2-3に沿って現行計画の進捗状況と本市を取り巻く社会環境の変化について説明) ・ まちの状態指標について評価が▲になっている部分についての説明 ➤ 「「地球温暖化対策に取り組むまち」として満足している市民の割合」のパーセンテージが下がっている原因は不明であるが、もしかしたら、地球温暖化対策に取り組んでいるにも関わらず、近年の夏の猛暑などを捉えて、対策が進んでいない、満足していないと思われる方もいるのではないかなど、こういった感情がアンケート結果に影響しているのではないかと推測している。 ➤ 「生物多様性を保全する活動・イベントに参加したことがある市民の割合」について、パーセンテージが下がっているが、「生物多様性を理解している市民の割合」の35%よりは低い値になることが想定される。基準値と比較して、横ばい傾向の振れ幅だと認識しているが、増えていないことも結果に表れているため、今後も引き続き啓発をしていく。 ➤ 「生物多様性保全活動に取り組む企業の割合」については、上記市民の割合と同様な傾向があると認識している。 ➤ 「事業系可燃ごみの排出量」が増加していることについては①コロナのリバウンド、②緑のリサイクルセンターが改修工事に伴い、停止したことなどが影響していると考え。現状としては、

	ごみの持ち込みの際の料金改定の影響や、民間施設へのリサイクルなどで、減少傾向である。 ➤ 「最終処分場の容量の確保」について、ごみを埋め立てていけば全体容量は減るが、減り幅は年々減少している。 ➤ 「「市民や企業が環境に配慮しているまち」として満足している市民の割合」については、パーセンテージでみると減少しているが、減っているというよりは、増えていないという状況。今後も増やしていく啓発が必要。 ➤ 「環境に関する取組を行っている事業所の割合」についても上記と同様と考えるが、取組を加速する必要がある。
会長	・議題（３）及び（４）について、意見等をお願いしたい。
委員	・「地球温暖化対策に取り組むまち」として満足している市民の割合」のパーセンテージが下がっている原因について、市民の意識が高くなってきて、逆に満足していない結果とは考えられないか。 ・「生物多様性を保全する活動・イベントに参加したことがある市民の割合」について、調査年度は 2020 年であるので、コロナの影響もあるのではないか。
事務局	・「地球温暖化対策に取り組むまち」として満足している市民の割合」のパーセンテージが下がっている原因について、市民の意識が高くなってきて、逆に満足していない結果である可能性はあるが、詳しい原因はやはり不明である。 ・「生物多様性を保全する活動・イベントに参加したことがある市民の割合」については、コロナの影響も考えられる。
会長	・資料 2 の環境行動力と共働で「環境配慮行動実践している市民の割合」は約 10%増加しているが、「市民や企業が環境に配慮しているまち」は減少している点については、可能であれば分析していただきたい。
委員	・事業系可燃ごみの排出量の増加について、コロナの影響ということだったが、現在はどうなっているのか。
事務局	・コロナの影響と緑のリサイクルセンター改修工事のため、事業系可燃ごみが増加したが、昨年度の速報値から見ると、10,000 t 減って、28,000 t で落ち着きそう。減ったのは料金改定の影響が大きく、今まで民間処理業者が受けてもらえなかった部分が、適正価格となり民間にも流れていった（資源化された。）ためである。
委員	・「最終処分場の容量の確保」について、この容量の確保は本当に必要なのか。豊田市としては、ごみを減らしたいが、ごみ処理をする容量を増やしたいという部分のバランスはどのように考えているか。
事務局	・最終処分場の容量は確保していきたいと考えている。年々埋めるごみの量は減少しており、昨年度からリユースの事業にも力を入れており、その効果もある。指標については、部会の中で議論していく。

（５） 環境基本計画の改定方針及び環境審議会の進め方について【報告】

会長	・議題（５）について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	（資料 3 に沿って環境基本計画の改定方針及び環境審議会の進め方について説明。）
会長	・資料を踏まえて、環境基本計画策定にあたり、委員の皆様の意見等をお願いしたい。

委員	・現行計画の年度の変化としている指標について、いくつか指標の考え方自体が最適ではないと感じるので、次期計画では、その部分を、部会でしっかり議論していくべきだと感じる。アンケートを実施する際も、変化したことが分析できるような質問を設定するべきである。
委員	・アンケートの質問で、市民や企業が環境に配慮している街として満足している割合の項目に関して、市民や企業に2つのことについて聞いているので、市民が満足していることと、企業が配慮していることは、分けて聞かなくては、うまく回答ができない場合がでてくる。専門家から見ると、質問の仕方が妥当ではないと考える。次期計画のアンケートについて、事前に相談してもらえると助言ができる。
委員	・5つの柱について、部会が設置されている分野については現状のままで良いと思うが、「安全・安心」については十分議論ができていないと感じる。「安全・安心」と「市民の環境行動力向上と共働の分野」を一緒にすることや、どこの部会に位置付けるかなどを検討し、理解を深めることができると良いと思う。
会長	・国の第4次環境基本計画策定時、審議会のメンバーであった。当時、東日本大震災があり、「安全・安心」が大切であるという認識があり、国の計画にも入れられた。 ・審議会では、各部会の報告の時間も取りながら、安全・安心などの共通の部分もしっかり議論する時間をとっていく。
副会長	・市民の生物多様性の理解についての割合が、向上しているということはよいことであるが、生物多様性の理解は意外に難しい。豊田市が豊かなふるさとであり続けるということを、市民や企業がどれだけ理解しながら進めていくか、引き続きいろんな施策が行われていけばよいと思う。イベントのやり方によって、参加者は増やせると思う。
委員	・一言に環境といっても、エネルギー問題から身近なごみ問題まで、多種多様であり、壮大なテーマであると感じている。今日が第一歩ということで、これから皆さんのご意見を聞きながら、勉強していきたい。
委員	・子どもと関わるが大変多い。未来都市推進課が作成したSDGSカードゲームを実施した際、希少生物やラムサール条約に登録された湿地など豊田市のことについて、子どもたちが知らないことがたくさんあった。まず、子どもたち（未来の大人）と関わって、いろんなことを経験してもらうような機会を増やしていきたい。
委員	・次期環境基本計画は10年の長い計画であるが、コロナのような影響も、今後10年間で起こりうることはあるので、想定できない環境変化にも臨機応変に対応できる計画にしていけると良いと思う。指標そのものも、しっかり要因を分析して、計画に入れられると良い。
委員	・自然環境に出て行きたいという市民のニーズは着実に高まっているが、豊田市各地に存在している、ラムサール条約湿地などの、生物多様性に触れることのできる場が市民に知られていない部分がある。そういった部分が数値の底上げに繋がると考えられるので、推進していくことが今後の肝だと思っている。
委員	・幼稚園の子ども、小学生を含めて年間1万人以上環境学習、その指導にあたる大人の指導及び企業からの依頼も受けている。今年で25年目になる田んぼ学習では、親も一緒に参加してもらった。実際に子どもよりも親のほうが自然体験をしてきていない。参加した

	父親から「会社で、自然保護活動といわれているが、自然がどういうものか理解していないので保護のしようがなかった。田んぼに入って初めて分かった」と感想をもらった。触れることで味わう感性がある。気付く感性を最優先にしたい。
委員	・以前トヨタの森の池作りイベントに参加した。子供も大人もみな楽しそうに作業していた。体験会に参加することはただ見聞きする参加よりも対象を身近に感じる。体験する場を多く作ってほしい。 ・今後、人口動向が非常に大きく影響してくると思う。今から 10 年後の 2035 年を目途にすると、豊田市の人口動向は既に減少している。推移より早く、2024 年 415,833 人になっている。2035 年だと、40 万だとみているが、実際にはどのくらい減るのか、より現状を見据えたデータがほしい。 ・資料の表記について、和暦と西暦の併記でお願いしたい。
会長	・他市の総合計画では中心市街地、田園環境、と書いてあり、中心市街地からみたら、周りは自然豊かな田園と一言で表現してしまうことが多いが、豊田市の場合は、そこでたくさんの方が営みをしていて、これからどんな営みをしていくのか、旧町村のことも見ていく必要がある。都市部だけを見るわけにいかない。分かっているが、毎日の行動につながらない、ということが多い。昔なら、環境に負荷を与える行動をしたらその結果をすぐに見ることができた。例えば、お米を排水溝に流してしまうと、すぐに家の前の側溝にお米が溜まっていた。今は下水で知らない間に処理されている。私たちの行動とその結果生じた環境変化を ICT 使いながら見られるようにする、毎日の行動に跳ね返ってくる（見える化）ようにできるとよい。 ・部会に所属していないが、日程の都合がつけば部会に参加したい。
会長	・資料を見て、気付いたことなどがあれば、来週まで（5月24日頃）に事務局へお願いしたい。

5 その他

会長	・その他について、事務局からの説明をお願いします。
事務局	・(仮称)新城設楽風力発電事業について、中部電力（株）から令和 6 年 5 月 14 日付で本事業を廃止する旨の通知を受けた。廃止の理由は、十分な事業性を確保することが困難であると判断されたため。
事務局	・市では環境配慮行動の一環で会議資料のペーパーレス化を推進している。本審議会においても、可能な限りデジタル化及びペーパーレス化を推進していきたい。ついては、今後の会議資料に関するアンケートを机上に置かせてもらっているので、帰りにご提出いただきたい。
会長	・事務局からの説明に対して、質問や意見があればいただきたい。
	(意見なし)